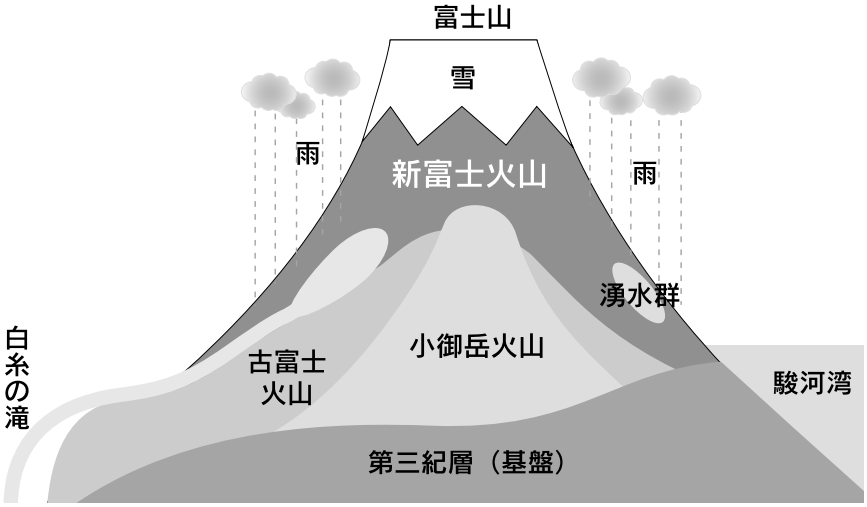
特　集

富士山の湧水について

富士山湧水の仕組み



富士山湧水のはなし

富士山は“水の山”とよくいわれます。日本一高く、駿河湾からそそり立つ富士山には、たくさんの雨が降り、雪も積もります。山麓の降水量は、年間平均すると東斜面が最も多く3000㎜、南斜面で2000㎜、西斜面で2500㎜、北斜面では1500㎜となっています。富士山山頂付近の積雪は、平均すると積雪の初日が９月30日、終日は７月１日で、積雪の深さの最大は４月ごろ現れ、3mを超します。

では、雨や雪解け水はどこに蓄えられているのでしょうか？　富士山は玄武岩質の火山灰と溶岩がくり返し噴出して重なってできた円錐形の成層火山です。そして、常時水の流れがある河川をもっていません。このため、雨や雪解け水はすべて地下へしみ込みます。

溶岩層の厚さは平均30m、１層の厚さは１～５mで、７層位が重なっています。何層もの溶岩層の間に閉じ込められた地下水は、次から次へと高い所から入り込んでくる地下水の水圧で押し出されるように末端から湧き出ます。この様子は「白糸の滝」を見れば溶岩層の間と古富士泥流層との間から白糸のように噴き出しているのがよくわかります。これが地下から湧き出しているのが「柿田川」です。

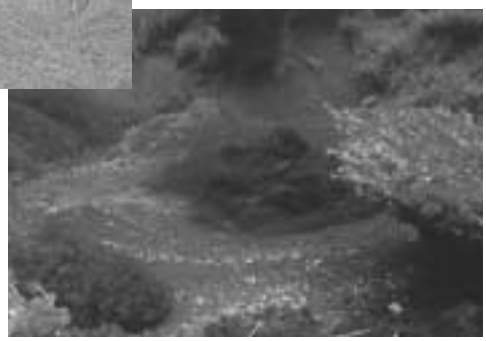
富士山の湧水の特色は、①水量がゆたかなこと（富士山の各斜面の降水量から地下水の全体量を算出すると約500万㌧/日となり、この量は関東平野全体の地下水量に匹敵します）②常にほぼ一定の低温(15度前後)であること ③湧水量は多雨の年も少雨の年も大きくは変わらないこと（溶岩中に蓄えられて水圧で押し出されるまでの年数は10～15年と推定されています）④長い年月をかけて溶岩中で漉されるため、鉱物成分がほどよく溶け込んでおいしいこと、などが挙げられます。富士山の水がいつまでも豊かでおいしくあるよう、みんなで守っていきたいものです。

富士山湧水の保全活動

「柿田川みどりのトラスト（本部・清水町）」は、東洋一のゆう水量を誇る柿田川のナショナルトラスト運動を展開している。会長の漆畑信昭さんは「静岡県は豊かな自然に恵まれているせいか、県民は自然への感謝の思いや自然破壊に対する危機意識が低い。破壊された後では手遅れ。県もしっかり取り組むべきだ」と進言する。柿田川のゆう水量は昭和38年には一日当たり131万トンだったのが、現在は100万トン前後に減少している。水源かん養のため富士山南東ろくの植樹も実践している漆畑さんは「環境保護は口にするだけではだめ。まず行動です。家庭でも事業所でも、できることから始め、続けて欲しい」と呼び掛ける。
（2003年1月発行「MYしずおか（15号）」より）

※資料:「静岡県の湧き水100」より

◀柿田川の澄んだ水をのぞき込む子どもたち



▶柿田川公園内の展望台や遊歩道から砂を巻き上げる湧き間が見える

※資料:柿田川みどりのトラストより

富士山湧水の様子

※出典：「静岡県の湧き水100」より

富士・富士宮方面

●湧玉池　[富士宮市宮町]

富士山本宮浅間大社境内にある国の特別天然記念物の湧水で、登山者が身を清めて富士山をめざしたことなど、昔から神聖な泉として崇められていたことがうかがえます。水温は四季を通じて14度、水量は昭和30年代には40万㌧/日あったものが、近年では20万㌧に減少しています。

●永明寺　[富士市原田]

天平時代に草創され、1590年に豊臣秀吉が小田原征伐の際に宿とした由緒ある寺で、裏山を背景に湧水が流れ落ちる見事な日本庭園があり、ホタルやカワセミも見られます。裏山から湧き出る水はイボや病に効くといわれ、「いぼとり不動」として親しまれ、水をくみに来る人も多くいます。

●田宿川　[富士市今泉]

田宿川は富士市今泉を流れている延長約1.5kmの短い川です。住宅や工場が密集する市街地の中を縫うように流れています。この田宿川の水源は、川岸のいたるところから湧き出す「湧き水」だけで、言いかえれば「ミネラルウォーター100%の川」です。

◀富士山本宮浅間大社境内の湧玉池

▲毎年行われている「田宿川のたらい流し祭り」

保全活動団体(会員)

- ●特定非営利活動法人 ふじ環境倶楽部
- ●富士山の自然を守る会
- ●(株)大松園
- ●富士山自然の森づくりの会
- ●富士山の自然と環境を守る会
- ●富士宮市域自然調査研究会
- ●富士自然観察の会
- ●富士宮自然観察の会
- ●富士山本宮浅間大社

三島・清水町・長泉町方面

●柿田川　[駿東郡清水町]

延長1200mの小さな川でありながら、豊富な水と清らかな流れが織りなす豊かな自然環境を目のあたりにできることから、その名を全国にとどろかせています。４月～11月にかけて水中に揺れるミシマバイカモの花が見える。水温は一年を通して15度、湧出量は100万㌧/日で昭和30年代に比べ30万㌧も少なくなっています。1970年代以降、住民主体による保護活動が進められ成果をおさめてきました。

●三島梅花藻の里　[三島市南本町]

佐野美術館の向いにある小さな湧水公園。三島市内で発見され、昭和29年に県の天然記念物に指定されたミシマバイカモは、水温や水量に敏感で、湧水の減少などにより姿を消してしまいました。このバイカモを復活させようと、市民グループのボランティアが作り上げた公園で、5月～9月にかけて白い花を咲かせたミシマバイカモを見ることができます。

●富士湧水池　[駿東郡長泉町竹原]

長泉町唯一といわれる富士山の伏流水が、清水町との境にあたる段丘麓の住宅地に湧き出ています。安政元年に発生した大地震のときに突然湧き出したと伝えられ、水源から50mほどのせせらぎ水路があり、岸辺にはセキショウなどの湿地性の植物が育っています。「くぼの湧水」ともいわれ、都会のオアシスのように付近の人々の憩いの場になっています。

◀富士湧水池（「くぼの湧水」とも言われる）

▲「三島梅花藻の里」

保全活動団体(会員)

- ●柿田川自然保護の会
- ●柿田川・東富士の地下水を守る連絡会
- ●(財)柿田川みどりのトラスト
- ●特定非営利活動法人富士山クラブ
- ●三島自然を守る会
- ●沼津市民協議会
- ●三島・自然に親しむ会
- ●グローバル文化交流協会
- ●静岡県たけすみ研究会

裾野・御殿場・小山町方面

●景ヶ島渓谷　[裾野市千福]

富士山の裾野を流れる佐野川が、太古富士山から流れ出た溶岩流を600mにわたり侵食してできた渓谷。高さ10m余、幅50mはあると思われる柱状の溶岩壁は「景ヶ島屏風岩」と呼ばれ、その下にコバルト色の滝壷が広がり、岩の割れ目から無数の湧き水が噴出しています。その独特な美しさと学問的な価値の高さから、平成３年に県から名勝地として指定を受けています。

●中清水水神公園　[御殿場市中清水]

中清水水神公園の湧水は公園の東端の直径１mほどの古木の根元から清水が湧き出ています。すぐ隣に水神様が祭られています。この辺りは湧水源が多く、これらの湧き水を集めた長さ70m、幅30mの大きな農業用水池が作られており、マスやコイが悠々と泳ぐ姿も見られます。

●須川の湧水群　[小山町棚頭]

須川の源流は日量20万㌧を超える、富士山東麓でも有数の豊富な湧水量を誇ります。水量が豊かで温度も年間通じて一定している須川の湧水は、ワサビやミズカケナの栽培に適し、地元の名産となっています。

◀静岡県の名勝地「景ヶ島渓谷」

▲水神様を抱き込む様に流れる中清水水神公園内の湧水

保全活動団体(会員)

- ●富士山と自然に親しむ会
- ●富士山ナショナル・トラスト
- ●富士山をいつまでも美しくする会
- ●富士山自然誌研究会
- ●御殿場ライオンズクラブ
- ●特定非営利活動法人 土に還る木・森づくりの会